

今月の表紙「ソテツ」

公園の築山などでよく見かける「ソテツ」は、南国情緒たっぷりの葉が印象的です。その生長はさわめて遅く、大きくするには長い年月が必要ですが、やせた土地でも辛抱強く育ち、潮風などにも強いタフさを備えた植物です。

Contents

01 巻頭言

高須武男「自分らでできる事から……」

02 特集1

日本経済研究センター・
経済同友会共催シンポジウム

特集2

第22回全国経済同友会セミナー

10 リレートーク

大倉 俊「料理番組に揺らぐ一断想」

11 委員長インタビュー

医療制度改革委員会 高須武男
対内直接投資推進委員会 杉江和男
中小企業活性化委員会 鈴木登夫
社会保障改革委員会 門脇英晴

15 経済同友会最前線

医療制度改革委員会 中間報告書
「地域を主体とする医療制度を目指して」

対内直接投資推進委員会 活動報告
「対内直接投資推進委員会活動報告」

中小企業活性化委員会 提言
「がんばる中小企業を応援するために」

社会保障改革委員会 提言
「真に持続可能な年金制度の構築に
向けて」

気候変動に関する世界ビジネス・サミット
経済同友会・GC-JN共催の朝食懇談会
ほか

27 新入会員紹介

2009年6月19日現在の入退会者

29 同友会スケッチ

2009年6月の記録と8月の予定

30 私の思い出写真館

本林理郎「私の国際化」



副代表幹事
医療制度改革委員会 委員長

高須 武男

バンダイナムコホールディングス
取締役会長

「自分らでできる事から……」

先日、札幌パークホテルで開催された「全国経済同友会セミナー」で、旭川市旭山動物園名誉園長の小菅正夫氏の講演を聞く機会がありました。

小菅さんは、廃園の危機から動物園を救った園長さんです。何と映画にもなりました。

旭山動物園の経営危機の中、旭川市から全く予算がつかない状態の中で小菅さんとスタッフの皆さんが考えたことは「自分らでできる事からやっていこう……」ということだったそうです。

一生懸命やっているのに、来園者からは「動物園は面白くない……」「動物は寝てばかりいる……」などの声ばかり。来園者数も徐々に減り、ついには市役所の中に廃園の動きがあることを知りました。自分たち「飼育係」と動物の関係には緊張感があり、それぞれの動物は目をらんらん（餌を貰える!）と輝かせ、とても興味深い独自の行動を取るのに……と思い、そこで考えたそうです。

「観客⇔動物、動物⇔飼育係」という関係上、観客から隠れた存在として表には出ない飼育係の仕事、動物と観客の間で仕事をする「観客⇔（飼育係）⇔動物」というポジションに変更することに。まさに発想の転換で、お金をかけず自分たちでできることから手をつけていったのです。

そこから旭山動物園の大改革が始まりました。これが「行動展示」「能力展示」へと進化していくのです。動物たちが本来持つ能力を来園者に見てもらい、普段見せない行動に感動してもらおう……旭山動物園が理想とする動物園構想がこうして始まったのです。

小菅さんは、動物園の飼育係は、単に動物に餌を与えるだけでなく「野生動物が持つ命の輝き」を来園者に見て感動してもらおうことが仕事なのだと言います。こうして、今では年間の来園者数が上野動物園に並ぶまでになったのです。

小菅さんは北海道大学獣医学部のご卒業で、歴史上の「生物進化」を見てみると「種の絶滅期には、変化の種子が発現する空間が生まれる」とおっしゃっています。すなわち「ピンチは絶好のチャンス」ということです。

今まさに百年に一度と言われる世界経済の危機……ピンチです。

われわれ企業人は「禍を福に転ずる」という強い意志と行動力で、「変化の種子」を発芽させていかなければならない、と強く感じさせてくれたお話でした。